

# 川高同窓会報



埼玉県立川越高等学校同窓会  
〒350-0053 川越市郭町2-6 川越高校内

【同窓会】電話・FAX (049) 225-9071 (HP) <https://www.k-alumni.org>

【学校】電話 (049) 222-0224 (HP) <http://www.kawagoe-h.spec.ed.jp/>

## 特集 戦後80年 壮健OBに聴く 「今残したい記憶と想い」



戦後、川中生が使っていた布製バッグ。  
軍の払い下げ布地を基に業者が作ったもの。

### 目次

**特集** 戦後80年 壮健OBに聴く

「今残したい記憶と想い」255

同窓会長・校長挨拶……………6

「地区初雁会の課題とこれから」

地区初雁会 新会長挨拶……………7

「第2回くすのき交流会」「同窓

会役員会」の開催報告……………8

「くすのき未来塾」を3回開催9

「川高初雁の森」植樹料納入者10

総会記念講演 花岡達也氏……………11

文化講演会 和田雄二氏……………12

「くすの木俳句大会」のご案内、

「くすの木囲碁クラブ」の活動13

終身会費納入者(令和6年度)、

植樹祭・秋季散策会の報告……………14

令和6年度事業報告・会計収支、

令和7年度事業計画・予算案15

〜母校だより・事務局だより〜

「在校生から見た川高の1年」

(新聞部長寄稿)、人事異動……………16

「川高サイエンス探究事業」17

大学等入試合格状況一覧、部活

動の主な活躍……………18

叙勲・褒章受賞者、秋季散策会

のご案内、寄贈図書……………19

総会・記念講演のご案内

講師 吉田裕氏

編集後記など……………20

特集

戦後80年 壮健OBに聴く

「今残したい記憶と想い」

日本が大戦に敗れた1945年から80年。戦争は川中生にどのように降り掛かり、若者の心に何を残したのか。当時の川越中学校に在籍していた、現在90歳を

超えるOBから話を伺う機会を得ました。戦時中の「学生生活の記憶と想い」を、歴代の同窓生や今の若い世代にも伝えるべく特集しました。

戦時中の学校生活

配属将校が怖かった

1941年に、それまでの中国との戦争に加えて米・英との戦争に突入し、学校での授業や行事の戦時色は一層強まりました。もちろん普通教科の授業も行われていましたが、それ以前から現役軍人が「配属将校」として各学校に配置。「教練」の授業を担当し、射撃訓練なども行いました。42年入学の矢嶋氏は、当時の学校生活で印象に残っていることといえば「配属将校の怖さだった」といいます。気をつけをしていて「目が動いている」と殴られたり、ほふく前進の時に少しでも頭が上

がると「戦死!」と言われて頭を棒で叩かれたそうです。45年4月入学の青柳氏は「入学した時、上級生は勤労

もありました。校外で上級生に会うと敬礼しなければなりませんでした」といいます。

富士山裾野での宿泊訓練

「入学した時、上級生は勤労動員でほとんど不在。1年生も校内の畑や南古谷の荒川農場で農作業にあたりました。一方、剣道・柔道が正規の授業として存在。英語の授業

校内での軍事教練の他に、4~5年生になると習志野や軽井沢の軍隊施設に宿泊して野外演習。44年入学の1年生は、学生帽の代わりに戦闘帽を被って入学式

の3日後に富士山の裾野に行き、1週間ほど宿泊訓練を受けました。軍隊的な精神修養は

生もついてきました。ラップの音で起床。ゲートル巻きから始まり、全員が揃うまで何度もやり直しました。続いて、軍歌を歌いながらの行進や規律の訓練。軍事演習はありませんでした。が、叩かれないように緊張の1週間でした。クラス毎に富士山をバックにして撮った写真がありますが、富士山の景色を見た記憶はありません。」

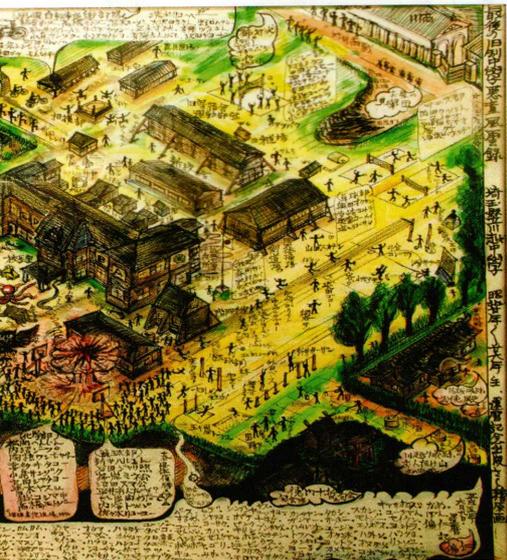


石井勝己氏

入校初期にやるのが効果的との政府の方針を受けてのもので、この訓練に参加した石井氏は次のように話します。「訓練には4クラスに将校が1人ずつ配属。先輩の4年

は増え続け、44年9月時点での合格者数は陸軍士官学校7人・海軍兵学校13人・海軍機関学校5人・海軍経理学校1人。予科練希望者は39人に上り、中学1~2年で受験できる陸軍幼年学校にいたっては、83人が志願しました。

かつて同窓会事務局局長だった故・伊藤豊氏(高2回)も「45年に差し迫る時局の重大さから、もう一刻の猶予もならないという焦りに駆られて、両親や学校に内緒で少年飛行兵に志願しました。12月に入隊と決まって身辺整理を始めたときに8月15日を迎えたのでした。できれば忘却の深淵に沈めておきたいことだと記しています。(飯能



制中学悪童風雲録(77x109cm)

は地下防空壕(絵の中央下)も描かれている

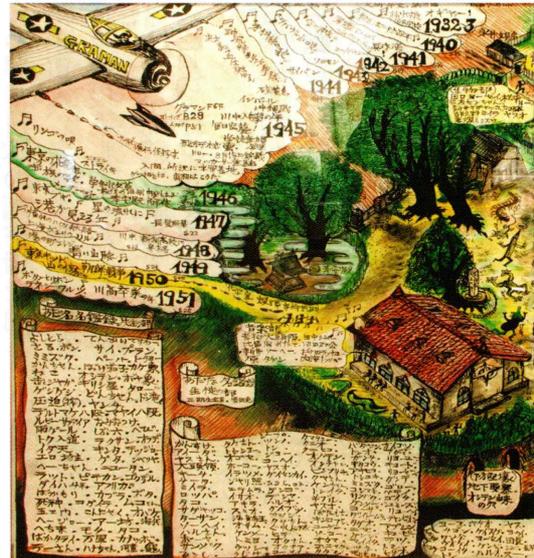
初雁ゲートル会「遙かなる日々」より)

勤労働員の様子

従来から農作業を手伝う勤労働者が行われていましたが、43年に学徒の勤労働者は兵器生産へも拡大され、44年3月に「学徒勤労働実施要綱」が閣議決定されると、川中でも順次通年の軍需工場への勤労働員が始まりました。

火工場の死亡事故で学校葬

上福岡にある「火工廠(しょう)」は正式名称を「東京第一陸軍造兵廠川越製造所」といい、さまざまな爆弾・兵器の生産を行う軍需工場でした。ここには44年8月から当時の3年生全クラスと、翌年2月から当時の1年生全クラス



昭和20~26年生還暦記念出版挿絵原画「最後の故郷」松岡章次氏(高3)画。空には米軍機、校庭

りを厚い壁で囲まれ、爆発があつたら天井は吹き飛んで、他の部屋に被害が及ばないよう胸に防護の布をあてて作業する一方、部屋と部屋の間には1人用の防空壕を掘り、空襲警報が鳴ったらすぐにその穴に飛び込むんです。火工廠では爆発事故がたびたび起き、44年11月21日に起きた事故で、当時3年生だった生田さんが死亡。岡田氏は「その日の朝、大きな爆発音聞こえた」といいます。「火工廠物語」(富田竹雄著)によると、この時の爆発は弾薬への焼夷剤充填中に弾薬筒の縁にプレス用の杵が当たって、その摩擦で発火したものが周りの火薬に引火。一瞬にして部屋中が火の海となり、作業員全員が火だるまになりました。その結果、死者9人・負傷者6人という大惨事になったのです。



矢嶋正一氏

「作業内容は、対戦車用の地雷の信管に火薬を詰める作業で、特に『チッカ』という火薬の爆発を誘発する、とても敏感な火薬(焼夷剤)を信管の先に詰める作業でした。部屋は『号屋』と呼ばれ、周

になつていんです。胸に防護の布をあてて作業する一方、部屋と部屋の間には1人用の防空壕を掘り、空襲警報が鳴ったらすぐにその穴に飛び込むんです。火工廠では爆発事故がたびたび起き、44年11月21日に起きた事故で、当時3年生だった生田さんが死亡。岡田氏は「その日の朝、大きな爆発

4月に入学。現在も仕事の傍ら在京初雁会の副会長として活躍中。青柳安彦氏(高3回・92歳) 東京・淀橋区から福岡に疎開後、父親の転勤で埼玉の豊岡国民学校へ転校。卒業後45年4月に川中入学。高3回生の還暦文集「おーい、楠の木よ」の編集ディレクター。なお岡田氏は電話で取材、青柳氏はメモを送っていただきました。

話を伺ったOBの皆さん

矢嶋正一氏(中46回・95歳)

高階国民学校(現・高階小)から1942年4月入学。ゴルフは全国シニア大会で優勝する腕前。昨年までプレーしていました。

山田 充氏(高1回・94歳)

東京・飛鳥山から45年3月の東京航空襲後に川越に疎開、同年5月川中3年

に転入。今回、表紙のカバンを提供していただきました。東京・ひばりヶ丘に在住。夫婦での散歩が日課。

石井勝己氏(高2回・93歳)

飯能第一国民学校から44年4月入学。医学博士。精神科医として今も自ら車を運転し、石神井の自宅から東松山の病院まで週1日通勤しています。

岡田良平氏(高2回・93歳)

白子国民学校(現・和光市)から44年

4月に入学。現在も仕事の傍ら在京初雁会の副会長として活躍中。青柳安彦氏(高3回・92歳) 東京・淀橋区から福岡に疎開後、父親の転勤で埼玉の豊岡国民学校へ転校。卒業後45年4月に川中入学。高3回生の還暦文集「おーい、楠の木よ」の編集ディレクター。なお岡田氏は電話で取材、青柳氏はメモを送っていただきました。

青柳安彦氏(高3回・92歳)

東京・淀橋区から福岡に疎開後、父親の転勤で埼玉の豊岡国民学校へ転校。卒業後45年4月に川中入学。高3回生の還暦文集「おーい、楠の木よ」の編集ディレクター。なお岡田氏は電話で取材、青柳氏はメモを送っていただきました。

なお岡田氏は電話で取材、青柳氏はメモを送っていただきました。

なお岡田氏は電話で取材、青柳氏はメモを送っていただきました。

吹き飛ばされるといふ怪我を負いました。高萩飛行場で特攻を見送り 陸軍航空士官学校の本校が豊岡にあり、飛行訓練を行う飛行場が埼玉県内では、狭山・高萩・坂戸などにありました。ここでは、機体が橙色で「赤トンボ」と呼ばれた九五式練習機などの訓練が行われました。川中生は高萩飛行場に45年2月から、当時の2年生2クラスが動員されました。45年5月に川中3年に転校してきた山田氏は、いきなり高萩駅に行くように指示されました。それは勤労働員先の高萩飛行場に行くためです。山田氏はその作業の様子などを次のように語っています。「飛行機を隠すための誘導路や、隠す場所を作るために木を切る作業などを行っていました。飛行機には幾つかの種類がありました。複葉の練習機での特攻の出撃を見

送ったことが何回かありました。飛行機が古いというだけでなく、エンジン以外の胴体は木、翼は布製で、撃たれても破裂はしないと強がりと言われましました。出撃では色を塗り替え、腹部に爆弾を装てんして飛び立って行ったので、『特攻での出撃』と分かりました。特攻というがフラフラする飛行で、あれで箱根を越えられるのかと心配しました。その光景は悲しくて、今思い返しても涙が出ます」。

45年に入学した1年生は軍需工場ではなく、日清製粉工場(本川越駅付近)と石川製糸工場(現・川越市立図書館付近)に動員されましたが、作業の手伝いを行う程度だったようです。このほか、朝霞陸軍被服廠や浅野カーリット等への動員の概要については百周年記念誌「くすの木」の抜粋(39〜45年)の掲載(QRコード)してあります。



機銃掃射、降伏勧告、ビラ

川越は本格的な空襲を受けていませんが、戦闘機による

機銃掃射は各所で受けています。その経験について青柳氏は次のように述べています。

「空襲警報が出ると、校庭の南にある御嶽山の谷にあった洞穴に全員避難しました。空襲が頻繁になると警戒警報でも授業は打ち切り、帰宅となりました。時には電車が止まっていて、線路沿いに歩いて帰宅したこともありました。本川越へ入間川間は約10キロ。豊岡へ飯能間も歩いたことがありました。また、西武線に乗って下校中、目の前をP51ムスタングが超低空で左から右に横切ったのに、運転手はそのまま走り続けようとしたので、私が『敵機だ、電車を止めろっ!』と叫んで電車を止めさせ、乗客全員で竹藪に避難しました」。

やがて日本の制空権を制した米軍は、各地で降伏勧告のビラを投下しました。それを拾ったという山田氏によると「毎日のようにグラマンが飛んできていて、その日は朝から警戒警報が出ていたので勤労員には行かずに自宅にいたら、午後3時ごろB29が飛んできてザーッという音がし

ました。これは爆弾の落下音と聞いていたので、原爆が落とされたかと思いました。防空壕でジーッとしていたがしばらく何の音もなかった。外に出て歩き回ったら、近所の畑に日本語で書かれたビラ(上のQRコード)が落ちていました。それを見た時、『ここまでできたか』という思いがよぎりました」。

疎開生のいっ

45年3月10日の東京大空襲前後から埼玉への疎開者は増え、その結果、学校への転入者も増えました。

大空襲後に疎開してきた山田氏は、「疎開転入者で1クラス分増えました。戦争が終



山田充氏

わると、多くの人は帰っていきませんが、自分は東京の学校が空襲で焼けてしまったので、そのまま川越に残りました」といいます。

東京から九州・福岡を経て豊岡に引越した青柳氏は、「久しぶりに聞く『ボク』という東京弁が懐かしかったそうです。

当時、疎開者と地元生とのあつれきもあつたと聞きますが、石井氏によると「川中では疎開者とは結構仲良くやっていました。東京から

来る人は色々な事を知っていて、麻雀を教えてもらったりしました」といいます。疎開者の中には日産財閥の創始者・鮎川義介氏の二男・金次郎氏も。同窓会「会員名簿」には、卒業していても疎開で一時在籍していた人も含んでいます。

川中生が聞いた玉音放送

8月15日、天皇が玉音放送。川中生はどこで、どのように聞いたのでしょうか。

「前日に熊谷の空襲があり、空襲に備えて自宅で穴掘りをしていました。よそで玉音放送を聞いた父親が帰ってきて、日本が負けたことを知りました。絶対に勝つと思ってやってきていたので信じられませんでした。ガックリきて、

エピソード

1945年4月24日、新河岸にB29が墜落。捕虜となった米兵3人が川中に連行されました。

その日は登校日だったので、多くの生徒が目撃。その1人・岡田氏によると「米兵はパラシュートが絡みついたまま連れてこられ、この時に川中の英語教員が通訳にあたりましたが、短時間で終わって所沢憲兵

隊に連れて行かれました。墜落現場には、チョコレートやガムが落ちていたというので、拾いに行つた」そうです。

この時、「川中教員の英語が通じなかった」という話もよく聞きますが、それは米兵の英語がブロークンの米語だったのに対し、川中教員の英語はキングズイングリッシュだった、という事情があつたようです。(同窓会報「72号」)

これから先どうなるのだろうか  
かと不安でした」(矢嶋氏)

「玉音放送は、自宅で母と聞きました。『大変なことになるな』と思いました。『奴ら(米兵)が来たら女・子どもを山へ逃がさなければいけない』と考えたり、『米兵が来るとしたら相模湾からだろうから、我々は爆弾を持って南へ行かなければならない』とも考えました」(山田氏)

「自宅で聞きました。前の日に『明日は陛下の放送があるから、家で聞け』と言われていました。内容は全く分かりませんが、父親から日本は負けたことを知らされました。負けちゃったのか、負けるかどうかなのかと、不安でした」(石井氏)

「父親の関係で東吾野の病院で兵隊さんと一緒に整列して聞きました。天皇陛下の意外なキンキン声に驚きました

が、意味は分からず、家に帰ってから兵隊さんに聞いて初めて知りました」(青柳氏)

敗戦の現実に対し不安を抱える一方で、多くの人が「解放感・もう敵機は来ないんだ」ということ・兵隊に行かなくても済むんだという安堵感」(青柳氏)も抱いたといいます。また「蓮馨寺あたりです。また『りんごの唄』を聞いた時やアイスキャンディーを食べた時、時代が変わったことを感じた」(山田氏)そうです。

**新時代の息吹きと戸惑い**

8月15日を境にして起きた

急激な変化は、川越中学校にどのような現れたのか。教科書を墨で消したことの他、敵性語だった英語が中心になって戸惑った、上級生への敬礼が廃止された(通学途中ではしばらく続いた)。そして大きいのが先生の態度の変化です。青柳氏は次のように記しています。

「夏休みの後、上級生が中心になって講堂に集まり、先生を吊上げたことがありました。矢面に立たされたある先生が『決まったことは決まったことだ!』と声を荒げていました。また、性格穏便だったある先生が、戦時中『貴様・俺と呼び合え』と言いなからクラス全員にビンタを食らわせたことがありました。

本心は嫌々ながら立場上という感じで、手が震えていました。その先生が終戦直後、教室で『あれは軍閥にだまされていたんだな』と照れ笑いしながら白状しました。

新しく変わった授業や行事について、石井氏は「自由選択の授業があつて、自分は農業を選びました。担当は岡田先生(通称・かんちゃん)。学校と本丸御殿の間に学校の農場があつて、好きな物を作ることができました。自分は花の種をまきました。理由はその後、何もなくて済むから。2年の修学旅行では、生徒の意見で伊香保に行くことになりました。計画も生徒が立てましたが、旅行業者などいないから現地集合でした。運動会でも、南洋の現地人にふんするなどの仮装行列をやりました。自由になったと思いましたが、民主主義とか憲法がどうのと盛んに言われまして、よく分かりませんでした。とにかく学校に毎日行けるのが大きな変化でした」といいます。

**「記憶」と「想い」の継承**

先輩方の経験したことを、私たちはどのように受け止めるべきなのでしょうか。

今回お話を伺った先輩方は、現在の状況を評して「良い・悪いは別にしてぜいたくな時代になった」「もう少し国というものを考えてほしい」「今は今で難しい時代になった」「自由と放縦をはき違えず、日本の民主主義を守ってください」などと言います。

百周年記念誌「くすの木」には14人までの戦死記事が。1939年に卒業生の戦死者をまつた忠霊祠が校内に設けられ、戦死が伝えられると「海行かば」を斉唱したとあります。その後も、志半ばで戦禍で亡くなった多くの卒業生がいたことは、決して忘れてはいけません。戦時中に学んだ先輩方の「記憶」と二度と繰り返してはいけないという「想い」。これからも風化させないことが私たちの課題です。

**エピソード**

44年入学の石井氏によると、「入学すると学校から校章と自分の名前が記された木札をもらった」とか。自宅の玄関に掲げる、いわば「川中の校章入り表札」。今



原市場村 番地

も自宅の玄関に掛けてある飯能市の故・本橋藤治氏(高

2回)宅で拝見。表札は幅4×縦15センチほどの木札。これが自宅玄関に掲げられていることは誇らしいことだったに違いありません。

翌45年の入学生ももらったようですが、いつから支給されるようになったのかは不明。44年に白子国民学校から川中に入学した岡田氏は「覚えがない」といい、ごく限られた期間の、飯能地域独自のものだった可能性もあります。

一方で、青柳氏は「数学のある先生の『お前たちは自由

同窓会長・校長 挨拶



同窓会長  
根岸秋男  
(高29)

昨年11月に開催された第2回「くすのき交流会」では、

現役大学生をはじめ若い世代の参加者が大幅に増え、盛況のうちに終了しました。世代を超えた交流の広がり同窓会の発展にとって大変喜ばしいことです。また、会場には各地域の初雁会を紹介するブースを設置しました。地区初雁会は同窓会を支える重要な組織であり、その活性化が同窓会全体の発展につながる

と確信しております。昨年9月には第11回「川高初雁の森植樹祭」を開催し、同窓生と現役生が共に自然環境の保全に努めました。

また、秋季散策会が昨年12月に新座初雁会主催で開催。普段は入ることのできない平林寺の仏殿や、美しい紅葉に彩られた庭園を特別に拝観することができ、参加者の皆様からも大変好評でした。

今年には戦後80年という節目の年。この機会に、戦禍で犠牲となった先輩方や戦中に学び戦後の復興を支えた先輩方の歩みに思いを馳せるとともに、平和の尊さを改めて認識し、未来を担う若い世代とのつながりをさらに深めていけたらと考えております。

同窓会活動は、皆様のご支援のもと着実に継続し、より充実した内容へと発展を遂げております。今後母校との絆を大切にしながら、多くの同窓生が参加しやすい交流の機会を設けてまいりますので、ぜひ積極的なご参加をよろしくお願い申し上げます。



校長  
田中洋安

着任にあたって

令和7年4月1日付で着任しました田中洋安と申します。

この度、県内屈指の歴史と伝統を誇る川越高校の校長を拝命し、その職責の重さに改めて身の引き締まる思いです。これまで脈々と受け継が

れてきた歴史と伝統、自主自立の校風を継承し、教育の不易と流行のバランスをとりながら、教育の進化の追求に全教職員、力を合わせて取り組んでまいります。

令和3年3月、学校教育法施行規則の一部改正により、各高校に対して育成を目指す資質・能力に関する方針などの3つの方針の策定・公表が義務付けられました。これに伴い、埼玉県は各高校に期待される社会的役割等(スクール・ミッション)を整理し、令和7年3月公表しました。

本校のスクール・ミッションは、「凡事徹底の上にある自主自立の校風を継承・発展させる学校として、学業だけでなく学校行事や部活動にも重点を置き、地域の期待に応える質の高い教育活動を行い、社会に通用する真の学力を身に付けた良識あるリーダーとなる人材を育成します」と再定義され、令和7年度から施行されました。

本校の更なる発展のため、すべての教育活動は生徒の成長のためという理念のもと、重点目標である「文武両

道」「自己実現」「情報発信」に全力で取り組み、その使命を果たしてまいります。

根岸秋男会長をはじめ、同窓会員の皆様におかれましては、従前と変わらぬご支援・ご鞭撻(べんたつ)を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



前校長  
小出和重

退任にあたって

生徒の進路実現を支援する3年生全員との校長面談を着任年度から実施してまいりました。また、「川高サイエンス探究」や「グローバルリーダーシッププログラム」・部活動・多彩な学校行事に生徒を主体的に取り組ませることで、大学合格をゴールとしない、グローバル社会の活力の源として活躍できる真の学力を育成してまいりました。

令和5年に着任以来、早いもので2年の月日が経過しました。本校の輝かしい歴史と伝統のもと、文武にわたる実績・新しい時代におけるリーダーとしての人材育成という目標を達成すべく全力でまい進してまいりました。この2年間、根岸会長をはじめ会員の皆様には本校の教育活動に対し、深いご理解と温かいご支援を賜り衷心から感謝申し上げます。

学校運営では目指す学校像にある「伝統ある進学校としての期待に応え」るために、

その結果、東京大学の学校推薦型選抜に初めて合格者を出すことができました。また、進学校の實力を測る指標の一つである、いわゆる難関国立大学合格者数も埼玉県立高校でトップ3を維持しています。これもひとえに同窓会の皆様から賜った、本校教育活動への特段のご支援のお陰と重ねて感謝申し上げます。川高生は自主自立の精神のもと、昔と変わらず輝き続けております。今後とも変わらぬ温かいご支援をよろしくお願いいたします。2年間、諸事にわたり、ご指導を賜りましたことに感謝を申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。

## 地区初雁会の課題とこれから

同窓会活動を下支えしている地区初雁会は、これまで通学圏のほぼ全域と県外に2つ(在京と近畿)設立。各地区初雁会に近年共通している大きな課題は、新規会員の減少と会員の高齢化。こうした中で、活動の活性化に向けて新たな取り組みが起きています。

各地区初雁会の新規会員の減少と会員の高齢化が進む中で、近畿初雁会が昨年活動を閉じました。同様の状況下でも、隣接する2地区初雁会が合流・協力して新たな組織を設立しようとする動きが。また、今年2月には東松山、川島・桶川、小川、嵐山の4地区初雁会が新たに比企地区初雁会連絡協議会を設立。各会相互の連携・交流を図ることで各会の活性化に取り組み始めました。一方、宮城・山形・福島3県にゆかりのある同窓生による南東北初雁会が今年新たに誕生する予定です。

地区初雁会は、各地の同窓生有志が発起人となり地域の同窓生に呼び掛けて自主的に設立されてきたものです。古くは1931(昭和6)年4月に飯能地区を中心とする広範な地域の同窓生により発会

した西部初雁会があります。その第1号会報が現存しており、その文面に見られる発会への熱い思いが、川越中学校時代の同窓生から現在に至るまで脈々と受け継がれていると言えます。

現在でも、居住地に初雁会がなく近隣の会に加入したり、勤務地にある初雁会にも加入したり、同期会の繋がりから他地区初雁会にも加入するなどして同窓生間の広範な交流が見られます。

また、同窓の医療関係者による初雁医会が、地区初雁会とは別に組織化されています。地区初雁会に未加入の同窓生の皆さんに、新たな交流の場として、なじみの深い地区初雁会への加入をぜひお勧めいたします。問い合わせは、同窓会事務局でお受けいたします。

## 地区初雁会の新会長挨拶



日高初雁会  
山崎宏治  
(高14)

昨年6月の定期総会で吉田正前会長の後任として会長を仰せつかりました。当会は昭和56年に創立され初雁会の中では4番目の比較的歴史のある会であり、私は第7代会長ということになります。歴代会長の顔ぶれには及びもつかず、身の引き締まる思いです。ただ平成30年度まで8年間、副会長を務め、その間に会長代理を経験していますので、これらを糧にして微力ながらまい進していきたいと思っております。皆様方のご指導・鞭撻(べんたつ)を宜しくお願い申し上げます。

昨今、埼玉県では男女別学高校の共学化に向けての意見がかまびすしく、卒業生のみならず在校生の反対の声も多々ありますが、その根底にあるのは、やはり共学化になると伝統とその校風が途絶えてしまうことであると思えます。私は小江戸情緒が漂う環境の中の学び舎のたたずまいが大好きでした。



小川初雁会  
瀬川豊  
(高21)

この度、小川初雁会の新会長に就任しました高21回卒の瀬川豊です。入学当初より図書部で読書会に参加。2年生からは元来運動が好きだったため水泳部に入り、バタフライを中心に競泳に取り組み、楽しい時間を過ごしました。卒業後、東京慈恵会医科大学に入学、昭和55年に卒業して同年外科に入局しました。その後、日比谷病院(千代田区内幸町)での外科勤務後、平成5年小川町にある実家の

瀬川病院に帰って参りました。現在は地域医療全般に携わっています。小川町は山紫水明・風光明媚(び)にしていにしえより続く町並みもあり、「武蔵の小京都・おがわ」と称賛されています。また、和紙・絹・建具・酒造などの伝統的産業も連携と受け継がれており、特に小川和紙(細川紙)はユネスコ無形文化遺産にも登録されています。小川初雁会には小川町を中心に東秩父村やときがわ町などの同窓生を中心に組織されており、総勢約200人になります。そして例年総会の出席者は50人程度です。活動は年に1回の総会と講演会。地元にも酒蔵もあることから、納涼会やお月見の会も行っています。また周辺にゴルフ場も多く、年に2〜3回のゴルフコンペを行うなどして会員相互の親ほくを図っています。今後他地区初雁会と共に母校や現役生徒はもとより、同窓会の更なる充実した活動のためにお役に立てればと願っています。どうぞよろしくお願いたします。

## 「くすのき交流会」広がる

「くすのき交流会」は令和6年11月30日(土)、昨年に続き明治安田ホールで2回目を開催。当日は、母校・くすのきの下で過ごしたころの話題を基に異業種交流や多様な情報を交換。同窓生間のより一層のネットワークづくりを目指す新規事業は、着実に広がりを見せています。

第2回目は計画当初より、

きました。

交流会発足時の趣旨を踏まえ、交通の便や経費の面から会場等を変更しない前提で実施計画を策定。次に、第1回実施後アンケート結果に基づき4点を改善。①若い層の参加を促すために会費の2段階制を採用。②可能な限り交流時間を確保。③無作為に参加者のベーステーブルを指定。④会場全体のスペース活用を工夫。その結果、49歳までの参加者が26人から49人に増加。中でも39歳までの参加が8人から20人に増えました。

東京開催の「くすのき交流会」は発足時より、申し込みに際しては「所属会社・団体名」の記入欄があり、案内ハガキにも「名刺持参」の記載があります。第1回目には参加のなかった現役大学4年生2人も名刺を新調して披露、先輩同窓生に歓迎されて交流の輪へ。第2回目「くすのき交流会」では異業種交流や名刺交換がさらに活発に。

若い参加者からは「幅広い分野で活躍中の先輩や経験豊富な先輩との交流から貴重な経験や刺激が得られた」との声が多く、この会には経験豊富な同窓生の参加が不可欠であることが再確認できました。企画運営委員会では、今後も実施後の評価・改善を基に交流の質の向上に取り組み、充実を図ります。

### 第3回「くすのき交流会」ご案内・申し込み方法

●日時 2025年11月15日(土) 15時～17時  
受付開始14時

●場所 明治安田ホール(東京都千代田区丸の内2の1の1)(東京駅より徒歩5分)

☎03・5219・5602

●参加人数 180人(参加者多数の場合は先着順)

●参加費 8千円(軽飲食代含む、30歳代までは7千円)

●募集方法(以下のどちらかの方法でお願いします。)

①「参加申込はがき」利用

②URLかQRコード(写真・左)か

ら申し込みフォームに直接アクセス(4月30日より受付)



●その他 募集締め切り連絡や不測の事態などへの対応は同窓会ホームページでお知らせします。

「くすのき交流会」は企画運営委員会本部と委員(各地区初雁会推薦者と有志)により運営しています。

### 同窓会役員会を開催

同窓会役員会が令和7年3月30日(日)午前10時よりセミナー室で開催され、役員26人が参加。冒頭、根岸秋男同窓会長(高29)から、令和6年度諸事業が無事終了できたことへの御礼、各地区初雁会の活動への感謝、今年が戦後80年という節目の年であることを踏まえた同窓会事業の企画等についてもふれた挨拶がありました。

次いで、3月末で勇退の小出和重校長が、昨夏県教育委員会から出された「共学化」問題に係る措置報告書について、さらに、今春の大学合格実績や現役生の部活動等の具体的な活躍にもふれて挨拶。その後、小出校長を役員一同拍手でお送りしました。

議事では、令和6年度事業・会計決算報告、令和7年度事業・会計予算及び地区初雁会の設立等について全て承認。議事の最後に、根岸会長から「埼玉県男女共同参画苦情処理委員から出された『勧告書』の趣旨に基づく母校の共学化に異を唱えた『意見書』を提



出したことを踏まえ、男女別学校の共学化に当たっては県民の意見を丁寧に把握する必要がある、さまざまな取組を実施していくとした県教育委員会の今後の対応について注視していく」との発言があり、役員会として了承しました。

議事終了後、役員会は「事業計画、会計及びその他会務の重要事項を審議する」と規定(同窓会会則第9条)されているが、特に重要な事項を審議する場合には、従前どおり事前に正副会長会議を開催し臨むことを改めて確認しました。役員各位の協力で円滑に会議が進み、予定どおり1時間で終了、散会しました。

# 「くすのき未来塾」を3回開催

2024(令和6)年度、くすのき未来塾は3回実施。第15回と16回は従来通りの対面講義でしたが、第14回は作業実習を伴うので募集人数をしばり、かつ多くの方からの申し込みを頂いたため参加者を選しました。

## 第14回 10月26日(土)

「化石を探してみよう！」

講師：西川正己(高21)

(東松山市化石と自然の体験館講師)

本講座初の体験実習を伴う講座ということで、申込者は160人を超えましたが、実習材料の準備の関係で定員を20人にして参加者を抽選しま

した。いつもは1割前後いる当日欠席者はゼロでした。

比企郡の地層と化石に関する講義の後、体育館脇の1階通路に移動して、東松山化石と自然の体験館付近から採掘した土砂を、篩(ふるい)にかけて化石を探す実習。保護者も一緒になって作業し、化石と思われるものが出ると



講師の先生が鑑定。結果としてアオザメ・オオワニザメ・メジロザメの歯をはじめ、全部で32個の化石を探し出すことができました。中には1人で4個の化石を発見した人もいて、参加者は大変満足していました。

## 第15回 12月8日(土)

「弁護士ってどんな仕事？」

講師：戸部秀明(高25)

(深澤総合法律事務所パートナー)

当日受講者41人という、文系的な講座では最も多い参加者となりました。講義は三権分立という国の仕組みの持つ意味から始まり、その中で弁護士の仕事について、それが社会でどういう意味を持つているのか、裁判の種類や進め方なども含めて解説。弁護士が付けるバッジが示され、ヒマワリの花弁は太陽



に顔を向けることから自由と正義を示し、中央に描かれた天秤は公平・平等を示すなど、弁護士の目指すものがデザインされていることなどを説明。裁判以外の弁護士の仕事や、弁護士になるための道筋なども話しました。

やや難しい言葉

数あり、保護者も含めて受講者には大変満足できる講座でした。

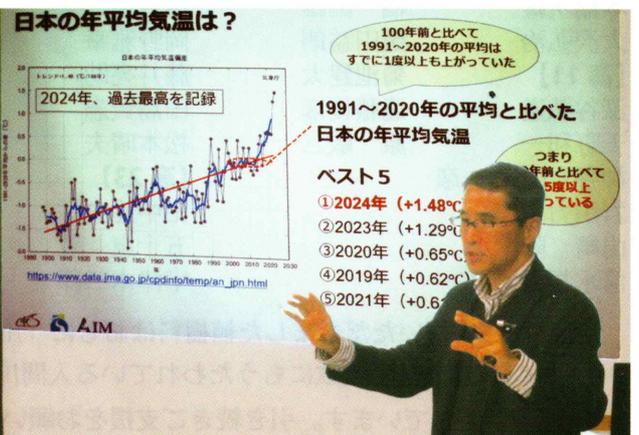
## 第16回 3月8日(土)

「地球温暖化は、どうしたら防げるか？」

講師：花岡達也(高45)

(国立環境研究所地球持続性統合評価研究室室長)

今日の世界が抱える問題をテーマとした講座です。平均気温が世界で、そして日本でのくらい上がっているのか、CO2がなぜ大きな要因の一つとされるのか、地球上



のCO2を増やさないためにどうしたらいいのか、「カーボンニュートラル」の考え方が、図やグラフを使って説明されました。

参加者の4分の3が4年生でしたが、「カーボンニュートラル」の言葉をほとんどの人が知っていて、参加者の意識の高さを感じました。

当日受講者は31人。講義ではクイズ形式で出題するなど、参加した小学生たちとやり取りしながら講義が進められ、受講者はもちろん、保護者にも興味深い講座になりました。

総会記念講演(概要) 令和6年5月26日

## 「アジアにおけるカーボンニュートラル社会の実現への道筋」

国立環境研究所 社会システム領域 室長  
花岡達也 (高45)

私は2004年に国立環境研究所に入所し、アジア太平洋統合評価モデル(AIM)チームに所属しています。気候変動対策の研究を中心に、エネルギー資源・大気汚染・オゾン層破壊などの問題に対する統合的な研究に取り組んでいます。

### カーボンニュートラル(CN)社会の実現なぜ必要なのか

気候変動に関する政府間パネル(IPPC)によって、気候変動に関する報告書が数年毎にまとめられています。以前の報告書では、「温暖化の主な要因は人間活動の影響による可能性が高い」と不確実性を含んだ表現でした。しかし、最新のIPPC第六次評価報告書では、「人間活動の影響であることに、疑う余地がない」と明記されました。これは大きな違いです。そして、「温室効果ガス(GHG)の排出を大幅削減しない限り、今世紀

身近な問題として実感しにくいです。一方で、大気汚染は地域規模の問題で、健康影響や農業影響などの身近な問題として実感しやすいです。

そこで、「共便益効果」を知る事が、大胆な気候変動対策を後押しする一つの手段になります。共便益効果とは「何らかの対策や行動を取ったときに、副次的・間接的に他にも良い影響や利益を同時に得られること」です。特に途上国では、気候変動対策の共便益効果として大気汚染の改善が注目されています。2021年に採択されたグラスゴー気候合意では、石炭火力発電の段階的な削減が明記されました。石炭を燃やすとGHGと同時に、大気汚染物質も排出されます。石炭消費の削減は気候変動と大気汚染の両方に非常に効果的です。

### 新しいキーワード 短寿命気候強制因子とは

「温室効果を持った物質」であり、「大気中の寿命(≠大気中に滞在する期間)が短い物質」のことを、「短寿命気候強制因子(SLCF)」と呼びます。地球の平均気温上昇を1.5度未満に抑えるために、GHGとSLCFを



同時に大幅削減することが期待されています。

また、SLCFの一つである煤(すす・BC)や対流圏オゾンは、大気汚染物質でもありますが、特に、BCは微小粒子状物質(PM<sub>2.5</sub>)の成分の一つです。そのため、BCの排出は、温暖化への影響と同時に、喘息や気管支炎などの呼吸器系疾患・不整脈や心筋梗塞など、心血管系疾患にも影響を与えます。

BCの主な排出源は、バイオマスや化石燃料(特に石炭やディーゼル)の燃焼です。例えば、途上国では調理や暖房にバイオマスや石炭が多く使われているため、屋内大気汚染が深刻な課題です。そこで、石炭やバイオマスの消

費を削減する対策を取ることによってBC排出量が減り、共便益効果(≠気候変動と大気汚染の双方の抑制に効果)が得られます。

### 対策の組み合わせを 考えることが重要

気候変動対策の共便益効果によってCN社会が実現可能、というわけではありません。しかし、共便益効果を知ること、大胆な対策導入の契機になり得ます。ただし、特定の対策のみに注目せず、対策の組み合わせを評価する必要があります。

たとえば、ガソリン車やディーゼル車に代わって電気自動車(EV)を普及すると、車両走行時のGHGやSLCF、大気汚染物質の排出がゼロになります。一方で、この電力を石炭火力発電で供給すると、GHGやSLCF、大気汚染物質を排出するので、EV普及による削減効果を相殺します。よって、EVと風力発電・太陽光発電の普及と政策を、同時に促進することが不可欠です。

このように、気候変動と大気汚染の両方に効果的な対策の組み合わせを促進していくことが、CN社会の実現にむけた一つの道筋だと思えます。

### 共便益効果を考える

平均気温上昇を1.5度未満に抑えるには、「世界全体で2050〜2055年頃までにカーボンニュートラル(CN)にする必要があります。CNとは、GHGである二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量と自然界による吸収量がバランスよく釣り合うことで、大気中への排出量がゼロ、という状態です。

世界全体でCN社会を実現するのは難しい道のりです。気候変動は地球規模で、GHGを多く排出する国と、気候変動の影響を大きく受ける国が異なり、

## 文化講演会 (生徒対象)

## 元生徒が夢見た化学研究のあの時と今

東京科学大学 名誉教授 和田雄二 (高25)

日時・2月14日14時半～16時

会場・体育館アリーナ(1・2年対象)

私は今からほぼ50年前に川高を卒業しました。大学では応用化学を学び、その基礎研究を40年余り大学や研究所で行ってきました。今は70歳となつて公益事業を行う(Zero R O C)を立上げ、一方でL I R I S E(株)では企業を顧客とするカーボンニュートラル促進技術提供事業を進めています。どちらも、私が大学で得た研究成果と経験を社会に役立てる活動です。

大学の専門を選ぶとき、日本は深刻な公害問題を抱えていました。水俣病は聞いたことがあるかと思いますが、ぜんそくを引き起こす大気汚染や、汚濁して生物が死滅する河川汚染など、公害は身の周りで直に感じる問題でした。公害の元凶と言われた化学工業に通じる応用化学系の専門は最も人気が低い大学進路で、私がそれを選んだ理由は次のことに関係しています。

## 2つの未来予測本

2冊の本を紹介します。1冊目は、「成長の限界」というローマクラブと名付けられたシンクタンクが、1972年に発表したレポートです。この本は、2100年までの人口・食糧生産・工業生産・資源・環境汚染の変化を計算機でシミュレートすることによって予測。当時のまま工業生産や環境破壊を継続すれば、ヒトが安全かつ安心に暮らす地球は2100年より前に限界を迎えるという警鐘を鳴らし、深刻なセンセーションを呼び起こしました。

## 世界が迎える成長の限界

生のときに読み、工学研究の行く末を案じました。もう1冊は、「2052—今後40年のグローバル予測」です。ランダースというスウェーデンの研究者が、2012年に発表した本です。彼は「成長の限界」本の研究グループで若い研究者として調査に加わっていたのですが、その後の40年間に「成長の限界」本が予測した危機が実際に起こってきていることを憂慮し、この本を執筆しました。

「成長の限界」本は、幾つかの未来予測モデルを提示。どの場合でも人口は21世紀前半に最大値を迎え、その後は減少の一途を辿ることを明示しています。この予測は、ランダースがさらに現代の精緻なコンピュータのシミュレーションでも、同様に示しています。さらに、「2052年」本では「成長の限界」本の当時では認識できていなかった地球温暖化問題がシミュレーションに取り入れられています。気温が最悪2・5℃上昇し、そのために起こる気候変動の結果、生物の生



活圏に大きな悪影響が発生すると予想されています。

## 二酸化炭素の排出削減

日本は世界で5番目のCO<sub>2</sub>大量排出国で、工業・輸送・生活などの活動すべての発生源から排出しているCO<sub>2</sub>の量は年間11億トンを、うち産業部門からは2・8億トン、さらにその内の化学工業はその2割の0・6億トンの排出で、全排出量の5%です。

## 私の研究した技術

私は、この5%のCO<sub>2</sub>を排出ゼロにする技術を大学で研究してきました。マイクロ波化学という新技術で、化学製造プロセスへのエネルギー

供給をマイクロ波で行う技術です。皆さんの身の回りの電子レンジは、電気をマイクロ波に変えて食べ物や飲み物を加熱する装置です。この技術は化学反応を進めるためにも使えます。現在の化学製造プロセスでは、石油と石炭を燃やし、その熱を供給して化学反応を進めていますが、そのため大量のCO<sub>2</sub>が発生します。これを再生エネルギーを用いたマイクロ波化学に置き換えれば、CO<sub>2</sub>ゼロにすることができるとです。

どうすればCO<sub>2</sub>排出ゼロに

マイクロ波化学を化学企業に使っていただくことが、私の今の仕事です。化学企業は、それぞれカーボンニュートラル対策を掲げていますが、2050年まで、残り25年間しかありません。その頃には、皆さんは42歳前後ですので、未来の世界を自分たちの手で守ることができません。異なる世代の私たちと皆さんが、それぞれの立場で「カーボンニュートラル推進」という声を上げていけば未来が救えます。持続していける社会と世界は、きっと楽しいです。

第24回「川高くすの木俳句大会」のご案内

本年も次のとおり開催する予定です。母校関係者はもとより幅広い方々のご参加をお待ちしております。

日時 8月30日(土)

受付 正午より

句会 午後1時～5時

会場 川高図書館2階セミナー室

投句先 夏・秋 雑詠3句

〒350-0053 川越市郭町2の6

投句締切 7月26日(土)

当日消印有効

投句料 1千500円(予定)

投句3句以上何句でも

郵便小為替・口座振込

選者 数名の方検討中

●第23回俳句大会作品集より

台風が心配されましたが、数年ぶりの対面句会が無事に実施できました。

『卒業生の部』(当日投句)

朝づくり褒美のごとき鱸雲

有山 博(高21)

行く夏や水着のあとの白い肌

鳳仙花猛る心の代弁者

井口留久(1・G)

長い夏凌雲の志を蓄えて

北田健人(1・A)

雲超えよ凌霄花我が志

古賀栄吉(1・G)

登校日日傘は一人用シエル

齋藤善士(3・B)

おほいなる寝釈迦のやうに天

市川英一(高23)

羅漢らのひそひそ話秋の声

勝浦敏幸(高21)

階段の軋む老舗の鰻食ふ

加藤昌之(高22)

足もとに吹き寄せられて秋の

栗原由郎(高21)

蝉

施餓鬼会や読経にまじりチャ

ボの声 菊池建太(高17)

肩を組み仲間と仰ぐ秋夕焼

鈴木孝雄(高11)

幾万の露を宿して樟大樹

藤 英樹(高30)

樟落葉掃いて光って風踊る

山野清二郎(高12)

終活を囃し立てるや法師蝉

横山文雄(高21)

『在校生の部』(事前投句)

(天)

水筒も水も欲しがらる炎天下

市川遼馬(1・D)

(地)

腕ひろげ伸びる楠夏の朝

五十嵐陽那太(1・G)

(人)

鳳仙花猛る心の代弁者

井口留久(1・G)

長い夏凌雲の志を蓄えて

北田健人(1・A)

雲超えよ凌霄花我が志

古賀栄吉(1・G)

登校日日傘は一人用シエル

齋藤善士(3・B)

友達泥んこまみれ夕焼空

山本晃大(1・E)

運動部絆育む汗の量

柳澤一誠(1・G)

ひぐらしや夕暮れ染まる古い

道 鎌田琉佳(3・F)

夕立は疲れを流す湯浴みかな

春田智成(1・D)

自転車を漕げば伸びゆく入道

雲 藤本怜駿(3・D)

猛暑日の臉が落ちる六限目

成岡 心(1・H)

蝉しぐれ影絵の如し古い寺

林 謙雄(3・D)

青空に黒き尾を引く飛燕かな

箕谷朋樹(1・H)

静寂な夜の蔵照らす夏の月

田中 涼(1・I)

止まぬなら濡れて帰ろう青時

雨 高橋聡太郎(1・F)

家族四人囲んで食べる冷素麺

青笹大河(1・B)

赤点で耳に入らぬ蝉の声

高橋聡太郎(1・F)

雷鳴にペンを持ち直すテスト

期間 成田風真(1・G)

●月例会のお知らせ

月例の「川越吟行句会」の

参加者を募ります。

年2～3回は川越周辺の散

策・吟行、その他はオンライン

句会を行います。左記に登

録願います。

https://ntgm.nolimbre.com/kawagoe/

詳細は、管理者市川英一氏(高23)のアドレ

myoujin.1ei@gmail.com

にご連絡ください。

「くすの木囲碁クラブ」の活動

●追悼囲碁

故・関口一郎氏(高5)が

令和5年7月に亡くなられて

1年。川越高校セミナー室に

て、故関口氏を偲び、追悼囲

碁会を開催しました。

令和6年7月27日(土) 10

時半～15時半、来賓の方と故

関口氏との思い出話に続き、

来賓の方々と対戦しました。

来賓は、親交の深かった日

本棋院埼玉県支部連合会相談

役・貴堂資彦氏(浦高6回)、

同連合会副会長大澤完治氏

(熊高12回)。

●四校親睦囲碁大会

令和6年11月10日(日)、

4校(浦和・熊谷・春日部・

川越)の同窓による第10回親

睦囲碁大会を、日本棋院さい

たま新都心支部で開催。当ク

ラブが幹事だったため15人が

参加。親睦・交流しました。

●プロ棋士による指導囲碁

令和7年3月29日(土)、

川高セミナー室で、河原誠

氏(高42)の長男・

河原裕二

段(日本

棋院東京

本院)に

よる指導

碁を行い

ました。

●平成七年度の予定

定例会

原則奇数月の最終土曜日

四校親睦囲碁大会

11月・さいたま新都心

●会員募集

興味のある方を募集してい

ます。同窓会事務局までご一

報ください。





**「川高初雁の森」  
第11回植樹祭報告**

9月29日(日)、植樹祭が「川高初雁の森」で行なわれました。参加者は同窓生32人と、学校側からは応援部・新聞部・生物部・山岳部・放送部の生徒35人と引率の教頭先生。

挨拶に続いて応援部による校歌・応援歌で開会。今年も飯能市森林づくり課のサポートを受けて、遊歩道にウッドブロックを敷いて整備しました。

作業は、同窓生と現役生徒混合の10班で実施。ウッドブロックや砂の入った袋を遊歩道に運び上げるのは



現役生徒の出番。同窓生の最高齢(高7・88歳)に対し、現役生徒1年生は高79回。「老いも若き」も一緒になつての作業でした。その後は同窓生は湖畔の東屋で、生徒は遊歩道中腹の展望デッキで昼食。気持ちよさそうでした。

**秋季散策会報告**

12月8日(日)、新座初雁会主催の秋季散策会が開催されました。

JR新座駅に集合し、5班に分かれて現地ボランティアガイドの説明を受けながら、今も残る野火止水

水の流れに沿って落ち葉の積もる散策路を歩きました。参加者は35人でしたが、会員の奥様の川越女子高時代の友達8人も参加し、いつもとは違った雰囲気。

師走に入りましたが、異常気象の影響で平林寺境内は紅葉真つ盛り。新座初雁会の方の縁で特別に住職から解説を頂き、普段は入れない本堂とその奥の庭園にも入ることができました。

新座初雁会の皆さんの周



到な準備と穏やかな天候の下、今も残る歴史を身近に感じ、さらに紅葉と特別な見学も加わった、ぜいたくな散策会でした。



**令和6年度事業報告（案）**

- 4月22日（月）『川高同窓会報』（第80号）発行
- 5月26日（日）同窓会総会・記念講演会（花岡達也氏）
- 6月21日（金）「川高初雁の森」事業部会幹事会・有志下刈作業
- 7月27日（土）くすの木囲基クラブ例会（以降3月29日（土））
- 8月31日（土）第23回「川高くすの木俳句大会」誌上句会
- 9月29日（日）第11回「川高初雁の森」植樹祭
- 10月26日（土）第14回「くすのき未来塾」（母校セミナー室）
- 11月1日（金）同窓会報編集委員会  
（以降2月15日（土）、3月22日（土））
- 11月10日（日）4校（浦和・熊谷・春日部・川越）同窓会親睦囲基大会
- 11月30日（土）第2回「くすのき交流会」
- 12月7日（土）第15回「くすのき未来塾」（母校セミナー室）
- 12月8日（日）秋季散策会（新座初雁会）野火止用水・平林寺散策
- 3月8日（土）第16回「くすのき未来塾」（母校セミナー室）
- 3月24日（月）会計監査
- 3月30日（日）同窓会役員会

**令和7年度事業計画（案）**

- 4月22日（月）『川高同窓会報』（第81号）発行
- 6月1日（日）同窓会総会・記念講演会（吉田裕氏）
- 6月20日（金）「川高初雁の森」事業部会幹事会・有志下刈作業
- 8月30日（土）第24回「川高くすの木俳句大会」
- 9月21日（日）第12回「川高初雁の森」植樹祭
- 10月中旬以降 同窓会報編集委員会（～令和8年3月まで）
- 11月9日（日）秋季散策会（川越初雁会）光西寺・喜多院 散策
- 11月15日（土）第3回「くすのき交流会」
- 3月下旬 会計監査
- 3月29日（日）同窓会役員会
- \* 各地区初雁会：定例総会、記念講演会、懇親会等
- \* くすのき未来塾（年度内3回開催）
- \* 川越吟行句会（月例）：川越周辺散策・吟行、オンライン句会
- \* くすの木囲基クラブ：奇数月最終土曜日、4校同窓会親睦囲基大会（11月）

# 在校生から見た川高の1年 (寄稿・新聞部長)

今年度は共学化問題に関連する出来事が印象に残る1年でした。コロナがいよいよ忘れられたという時に、川越高校に舞い込んできた共学化問題。「一難去ってまた一難」というような年だった、と振り返ります。

## 川越高校新聞

### 共学化問題について

さかのぼること令和5年8

月30日、埼玉県男女共同参画苦情処理委員が、県内の公立別学校は共学化すべきとする内容の勧告書を埼玉県教育委員会に提出。この勧告書を受け、同窓会が県教委に意見書を提出するなど、川越高校内でも大きな反響がありました。7月23日には、県立高校生の有志らによって共学化に反対する3万人以上の署名と要望書が県教委に提出され、その思いが届けられました。

そして迎えた令和6年8月22日、埼玉県教育委員会より共学化に関する報告書が公表されました。共学化を推進するとしながらも、具体的な時期などは明記されておらず、この1年の共学化問題の騒動

は煮え切らない形で終わりました。現在でも県立別学校の有志によって共学化に反対する活動が続いています。

共学化については川越高校内でも意見が分かれていました。新聞部が行ったアンケートでは生徒の80%が共学化に反対、7・6%が賛成、12%が分からないとしていました。共学化に反対という声が多いものの、賛成する人がいるのも事実であり、今後も慎重な議論が求められます。

### 変化を見せた体育行事

川越高校で行われる大きな体育行事は球技大会・陸上競技大会・強歩大会。そのうち



陸上競技大会と強歩大会に大きな変化が。陸上競技大会で

は騎馬戦が5年ぶりに復活。体育委員長をはじめとした体育委員の努力の結晶で、騎馬戦を復活させることができました。

競歩大会ではコースが変更となり、例年は東吾野がゴールでしたが今年は越生がゴールとなりました。去年より距離が1kmほど伸びましたが、多くの生徒が無事に越生まで完歩することができました。

### ゲリラ豪雨のため「後夜祭」は中止に

くすのき祭2日目の午後、ゲリラ豪雨に見舞われて「後夜祭」は中止に。帰宅困難な方のために、既に閉鎖されていた校舎を開放。実行委員会が中心となって来場者を誘導しました。生徒一人ひとりの臨機応変な行動で、来場者全員を無事に帰すことができました。生徒の自主自立が如実に現れた結果となり、自らが考え行動する大切さを改めて実感しました。

### 物理部がオランダへ

今年の部活動の中で一番の出来事は、物理部の世界大会出場。全国大会では準優勝という結果でしたが、追加枠と

して世界大会への出場が決定しました。

急に出場することが決まりましたが、オランダで行われた世界大会本番で川越高校のロボットは好調な動きを見せ、見事7位入賞しました。(令和6年末寄稿)

## 人事異動

### 退職

校長 小出 和重

### 転出

事務部長 大曾根 紀夫

新座総合技術高校 佐藤 正伸

総合教育センター 品澤 克明 熊谷西高校

吉田麻衣子 大宮商業高校

前沢 宏安 川越西高校

森山裕太 大宮武蔵野高校

川越女子高校(非常勤)

宮部 幸男 豊岡高校(臨)

大西 洋介 川越工業高校(臨)

熊崎 一麦 松山高校(臨)

実習教員(臨) 薄葉 瞳

市立川越高校(臨) 主事(臨) 松本 加奈

富士見高校 主事(臨) 非常勤講師 青野 博由

加藤 武司 坪井 正

校長 田中 洋安

教育局県立学校部副部长 教頭(参与) 品川 秀人

狭山緑陽高校 事務部長 小田部 毅

大宮北特別支援学校 教諭 越後 克美

川越南高校 蘆名 伸明

飯能高校 水井 明日香

狭山経済高校 加藤 一郎

坂戸西高校 伊藤 優紀奈

新座柳瀬高校 平塚 雄一郎

寄居城北高校 講師(臨) 塩原 智春

狭山緑陽高校(臨) 主事(臨) 菅野 里美

川島ひばりが丘特別支援学校(臨) ◆新採用

教諭 三村 ちはる 実習教員(臨) 吉岡 裕子

### 川越高校 サイエンス探究事業

川高サイエンス探究事業はスーパーサイエンスハイスクール事業の後継事業です。

#### 令和6年度 主な実績

##### ●科学教育振興展覧会

9月の「科学展」にて、サイエンス探究Aグループの「人間川岩根橋下に現れた枕状溶岩」が県教育長賞を受賞しました。また、Bグループ

界第7位の成績を収め、特別賞も受賞しました。

##### ●日本学生科学賞入賞

サイエンス探究Aグループの研究「人間川岩根橋下に現れた枕状溶岩」が県の代表として「第68回日本学生科学賞」へ出展さ

れ、入選1等を受賞しました

#### 学生科学賞



3月に茨城県つくば市で行われた全国大会では47都道府県中7位入賞、また、1年生を含むチームの中の優秀校に贈られる「特別賞」を受賞しました。



##### ●ロボカップジュニア

「ロボカップジュニア埼玉ブロック大会」が1月に行われ、2つの部門で1位、2位を独占し、本校から出場した4チームすべてが「ジャパンオープン2025名古屋」に出場し、Rescue Maze 2位(2年生チーム)、3位(1年生チーム)入賞。

#### 1年間の取り組み

##### ●総合的な探究の時間

「サイエンス探究Ⅰ・Ⅱ」今年度は1、2年生合わせて107人が選択しました。

- A 地球環境
- B 生命と物質
- C 環境分析と物質の変化
- D 物質とテクノロジー

の4分野に分かれ、研究・プレゼン能力の育成を目標に、「総合的な探究の時間」を中心に活動を行いました。

##### ●生徒研究発表会

5月、サイエンス探究事業の集大成となる生徒研究発表会が開催されました。

ノーベル物理学賞受賞者で

OBでもある梶田隆章先生をはじめ、理化学研究所の加賀屋悟先生、武蔵野学院大学の福田直先生をお招きし、ご指導いただきました。「レベルの高い探究活動を今後も続けてほしい」との講評を頂きました。



##### ●全校講演会

11月、JAXAの渡戸満先生をお招きし、「宇宙開発の今と未来」というテーマでご講演いただきました。宇宙技術の現状と活用・今後の進展について話を聞くことができました。

##### ●高校生がおくる冬休み科学教室

12月、本校を会場に実施しました。近隣の4校と合同で、市内の小中学生に向けてサイエンスの面白さを伝えることができました。

の「送電線下の森林管理がチョウ類の多様性に与える影響」埼玉県緑のトラスト保全地の事例」が県知事賞を受賞し、来年度の「かがわ総文祭2025」への出場が決まりました。

##### ●ロボカップ2024世界7位

サイエンス探究Dグループのチームが、7月にオランダで開催されたロボ

カップの世界大会に日本代表として出場。世



をいたしました。

##### ●科学の甲子園全国7位入賞

「第14回科学の甲子園埼玉県大会」が11月に行われ、川高Bチームは3位。Aチームは優勝を果たし、全国大会への出場を決めました。



##### ●生物学オリンピック銀賞

サイエンス探究Bグループに所属する3年の塚本駿汰君が、

「日本生物学会オリ



ンピック2024」本選に出場し、上位20位までに贈られる銀



事務局だより

叙勲・褒章受賞者

◆春秋叙勲

令和6年春

旭日中綬章

長峰 宏芳(高13)

地方自治功労

元・埼玉県議会議員

旭日双光章

駒井 勲(高21)

地方自治功労

元・入間市議会議員

瑞宝双光章(藍綬)

近藤 哲(高21)

矯正教育功労

現・川越少年刑務所  
教師師

令和6年秋

旭日小綬章(黄綬)

伊田 登喜三郎(高22)

建設業振興功労

元・一般社団法人  
埼玉県建設業協会会長

旭日小綬章

堀越 孝(高25)

弁護士功労

元・最高裁判所司法  
研修所教官

旭日小綬章

戸部 秀明(高25)

弁護士功労

元・日本弁護士  
連合会常務理事

旭日小綬章

小松初男(高25)

弁護士功労

元・最高裁判所司法  
研修所教官

瑞宝双光章

石川直幸(高20)

国土交通行政事務功労

元・関東地方整備局  
東京湾岸道路  
調査事務所長

瑞宝双光章

小林 芳徳(高22)

教育功労

元・公立小学校長

秋季散策会  
2025年度のご案内

川越初雁会  
「川越の地で、幕末維新期に  
おける隠れた史実に触れる」  
日時  
11月9日(日) 午前9時  
集合場所  
西武新宿線本川越駅改札前  
懇親会場  
小江戸蔵里 八州亭(まかな  
い処大正蔵)  
川越市新富町1の10の1  
☎049・228・1785  
懇親会費  
7千円(同伴者5千円)  
散策コース  
本川越駅→光西寺→喜多院  
→懇親会場  
見どころ  
「光西寺」  
浄土真  
宗西本願  
寺派、川  
越藩主松  
平家の菩  
提寺。最  
後の藩主・  
松平周防  
守康英の  
廟(ひょう)

がある。川越藩に関わる資料  
を多数所蔵している。  
「喜多院」  
開創は平安初期の天台宗の  
名刹(きつ)。徳川家との縁  
が深く、  
寺内には  
江戸城の  
遺構であ  
る客殿や  
書院をは  
じめ、仙  
波東照宮  
など江戸  
幕府との  
関連遺産  
も多数現存している。  
今秋の散策会は、川越に関  
連した「幕末維新期のあまり  
知られていない史実を掘り起  
こし、この激動期に思いを馳  
せる」という趣旨で企画しま  
した。奮ってご参加ください。



・吉田 裕(高25)  
「続・日本軍兵士―帝国陸  
海軍の現実」

・神山典士(高31)  
「我がまち」からの地方創  
生」

・花村嘉英(高32)

「シナジ―のメタファーに  
ついて考える―ナディン・  
ゴ―ディマと意欲」  
「計算文学入門(改訂版)  
―シナジ―のメタファーの原  
点を探る」  
「小説をシナジ―で読む―  
魯迅から莫言へ」  
「小説をシナジ―で読む―  
森鴎外から川端康成へ」  
「私の病跡学―作家の執筆  
脳を比較と共生で考える」

・桐田敬介(高57)

「想像力をときはなつ」(翻  
訳共著)

◆寄贈図書

・井上 浩(中48・高2)  
「川越地方のサツマイモ文  
化史」

・勝浦敏幸(高21)  
「句集・鉦叩」



# ◆ 総会のご案内 ◆

日時 6月1日(日) 午前9時30分より受付

会場 ラ・ボア・ラクテ (4階ベガ)

川越市脇田本町22-5 ☎ 049(243)6600

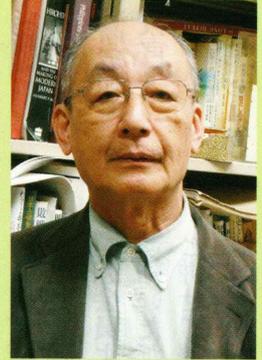
・総会 午前10時～10時50分

・記念講演 午前11時～午後0時10分

講師 吉田裕氏 (高25)

一橋大名誉教授 東京大空襲・戦災資料センター館長

演題 戦死・戦病死から見る近代日本の戦争と軍隊



・懇親会 午後0時20分～2時20分 (会費7,000円)



参加申込はこちらから

※ 申し込みは左のQRコードからか、同封のハガキのいずれかをお願いします。締切は5月22日。会費は会場で頂きます。やむを得ず中止する場合は、ホームページ(下記)に掲載します。



## 一同窓生からのメール

2023(令和5)年12月21日、フランスから一時帰国した山本眞次氏(高23)が母校を訪問。同窓会事務局長の金子が校内を案内した際、山本氏は校門を出る時に振り返り向いてくすのきに向かい深々と黙礼。私はその様子が脳裏に焼き付いて離れず、数日後に離日する直前の山本氏に電話でその理由を尋ねました。

離日後に届いたメールには「ご自身の人生と川越高校との出会い」についての思いが。それは、ぜひ現役生にも伝えたい内容で、山本氏に原稿を依頼。

昨年8月、「フランスでも通用した川越高校の神通力」が届きました。その全文は、同窓会HPに掲載(QRコード)しています。(金子)



## おわびと訂正

同窓会会員名簿で平成21年版以降、大澤義生氏(高45)が「物故」逝去とあるのは誤りでした。現在もフィリピンでご健在です。

失礼をお詫びし、訂正いたします。

## 編集後記

昨年8月、高1回の山田充氏(94)から「身の周りの整理で出てきた旧制中学の通学用品(表紙の写真)を寄贈したい」との申し出がありました。贈られたカバンはこれまで知られておらず、81号の戦後80周年の特集にからみ同窓生に紹介したいと考えました。

特集で戦時中のお話を伺った先輩は皆さん壮健で、当時の記憶も明りようで驚かされました。今なお現職で仕事を続けておられる方もいて、あらためて川高同窓生の素晴らしさに感銘を受けました。

さて、会報に「在校生の1年」を寄稿してくれている新聞部が、「闇バイト加担防止」を訴える川高新聞「号外」を作成。街頭配布する様子が、3月25日放送のNHK「首都圏ネットワーク」で、時宜を得た活動として紹介されました。(大澤)

- 尾崎勝美(高11) 圓山壽和(高17)
- 栗原忠男(高20) 栗原由郎(高21)
- 一瀬要(高23) 金子保夫(高25)
- 野口孝(高25) 柄川昭彦(高25)
- 大澤誠(高26) 平野正美(高26)

同窓会ホームページを活用して下さい ▶ <https://www.k-alumni.org>

同窓会事務局の連絡には、専用電話& FAX 049(225)9071

また、メールアドレス [alumni@hb.tp1.jp](mailto:alumni@hb.tp1.jp) をご利用ください。